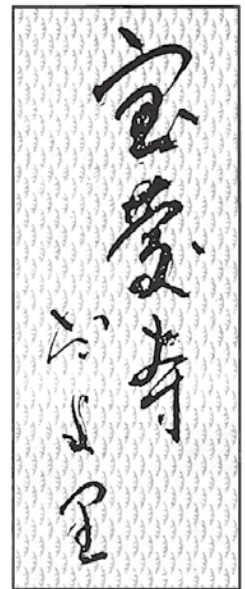




白山の朝明け(坐禅巖近くから展望) 午前6:22



謹賀新年

西暦二〇一四年

平成二十六年甲午

宝慶寺専門僧堂

堂長

田中 真海

責任役員

伊藤 哲夫

奉賛会会長

中村 利章

他

役員一同

編集発行

☎912-0434

大野市宝慶寺1-2

宝慶寺奉賛会事務局

振替00720-2-11671

TEL 0779-65-8833

FAX 0779-65-8103

Eメール hokyoji@happytown.ocn.ne.jp

新年、明けましておめでとうございます。旧年中、御法縁を頂きました皆様に、衷心より感謝申し上げます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

年頭に結ばせて頂くこの御法縁が、仏道の素晴らしさを皆様に御伝えさせて頂く機縁となりませう。仏陀に帰命頂禮し、拙僧のアメリカでの修行体験を綴らせて頂きます。

私の兄弟弟子の太白尼師が、平成十二年地元ヴァーモント州の丘にボツンと小さなお寺を開き、共に落慶法要を勤修し、昨年九月十五日の晋山式

形無き
日本の信仰心を
世界へ

宝慶寺 侍者
野原 眞承

ただまさに、
やはらかなる容顔をもて
一切にむかふべし。

(自分の表情がやわらいでいると
周囲の人たちの表情もやわらぐ)

道元禪師「正法眼蔵」



に至る迄、参禅会や法要に呼ばれては渡米して寝食を共にしてきました。何も無い所から出家・在家の弟子が生まれ、サンガが形成され、今日墓地まで整備され、現地では習慣のなかつた御先祖供養、御盆法要も毎年勤行される様になりました。特に昨年六月から三ヶ月間は、宝慶寺と同じ様に毎朝三時半から日米和合協力して修行道場同様に行ぜられるまでとなり、それに呼応するかの様に馨子・雲版(鐘)、木魚、香炉等の仏具に加え、仏菩薩の御尊像寄進の御法縁まで頂きました。野菜畑も出来、小さいながらも着々とサンガによる自給自足体制を整え、信仰の拠り所として、日本仏教を母体としたお寺が、此の地に根付く階梯を共に実感して参りました。皆意欲的で生き生きと毎朝日本語の御経を唱えています。なぜこうして現地の人達に日本仏教が受入れられたのか、過去の宗教

的实践の何処に不足を感じ、何を求め参禅し、安心して自身の墓地まで作るに至ったのか？共に歩み対話する中で感じた事を纏めてみたいと思います。何を求めているのか？それは個々に表現方法や深淺の違いはあっても突き詰めれば万国共通で真の安心だと感じました。また日本ではよく「口」とか「自然に任せて…」と言う時、深く安心し委ねて、の意味が含まれ、山川草木一切を支え育む母なる大生命を想起します。しかし、任せていては死んでしまう様な砂漠の激しい自然環境下に生まれ、二千年以上の歴史を持つ宗教では「只」とか「自然に」の響き方や根底の精神性が違う事にも気づかされました。また彼らは宗教を問われると「〇〇教徒です」と必ず答えますが、日本人は「無宗教です」等と平気で答えます。それは正に宗教の有無に先んじて大いに生かされて来た、という日本人の感性がそう言わせるのであり、粹の無い素朴な信仰はあっても「宗教」とは自覚されていないからに他なりません。

先の大震災で家族を失い、家を失い極限状態にある中、乱れる事無く礼節を守り相手を思いやり、時に我身を顧み

ず救出に没頭する日本人の姿の中に、御仏の教えは脈々と浸透し確かに生きていた事が証されました。サンガからも、物心両面の多大な支援と共に、何より被災した日本人の行動に感動し畏敬の念を切々と伝え祈ってくれました。より一層日本の精神的支柱を信じ、理屈抜きに只、求めようとする機縁ともなりました。その意味でも東北の同胞たる皆様と、日本精神を御伝え頂いた先人方に伏して感謝申し上げるばかりです。特別日本を代表する賢者ではなく「無宗教」と答える普通の人が示した姿である事が、世界の人の心により深く響きました。「宗教とは何か」戦争を続ける国で自問されました。誤解を恐れず申し上げるなら世界において今求められる宗教とは「形無き信仰」だと感じました。それは「無宗教」と言いながら、礼節を重んじ約束を守り、他者の信仰や思想を心から尊重し、劣勢にあっても自分も他人も赦し、信じる枠の無い寛容な精神を基底とした信仰です。自他共に真の安心を個々が体



験的に確信出来得る道でなくては今から弘める意義はありません。そして、そこそが宗旨宗派の名前さえ否定し、自己を滅し一切の余念を交えず只、坐る「禅」道元禅師の「只管打坐」に内在すると実感するのです。宗教は全て人間の調和と成長の為に時代に合わせて生じたのだという原点に帰る時、間抜けに聞こえる「無宗教です」という人達の真なる信仰への覚醒こそが、世界を照らす一番の可能性を秘めているかもしれせん。

和を以て貴しと為す形無き日本の精神を世界へ御伝えさせて頂く事の意義を、アメリカの地で切に感じました。年頭にあたり、その覚悟を持って、本年御法縁を頂く日本の皆様、そして世界の皆様に感謝し共に仏道を歩み、我が日本をはじめ、世界の平和をまず祈念申し上げ、如何なる苦難も恐れず、禍福善悪生死に全く染まる事無く、一切を包み照らす神仏の光に満ちた私達の真実自己の本心を明らかに「只管打坐」の道を共に勤めさせて頂きます。合掌 嗚呼、有難哉有難哉。



奉賛会会長

中村利章

恭賀新年。本年も宜しくお願い申し上げます。
「アベノミクス」
「お・も・て・な」

ン・ケネディ新駐日大使誕生：あつという間の一年が過ぎ、二〇一四年の幕開けとなりました。新しい年に願いますこと、近隣諸国との不安な要素：どうか戦争をしない国であってほしい、安全で平穏でありますように：皆さんよい年でありますように：見護つていただける宝慶寺さんに：合掌：



護持会会長

寺坂哲夫

謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年、本県嶺南地方の皆様方に被ったことに対し、心からお見舞いを申し上げます。本年は、復興に進展があります事を心より願っております。

さて、昨年は、我々の五十年来の念願でありました『県道 松ヶ谷・宝慶寺・大野線』の改修工事が着工に向けて大きく進展いたしました。これは、地元檀家並びに奉賛会各位の長年来の精力的な推進運動はもとより、宝慶寺ご住職の高尚な考えと決断力が計画進展に大きく寄与いたしました。

また、西川知事を初めとした県土木部・奥越土木事務所、更には岡田大野市長以下大野市担当部局

年頭所感



の積極的な御協力御支援によるものと厚く感謝申し上げます次第です。宝慶寺地区は、豪雪地帯でもあり、平成十六年七月には、福井豪雨による災害に見舞われましたが、今では、完全に復興されています。災害リスクの高いこの地区にとつて、また、観光・参詣の面においても県道の改修整備促進は、我々の悲願でもあり、いち早い完成を願うばかりです。今後の関係各位の益々のご尽力に期待申し上げます。

今後もお寺、地元が一致団結して日本曹洞第二道場である宝慶寺を護持していく所存でございますので、皆様方の御協力、御支援を賜りますことを何卒宜しくお願い申し上げます。

結びに、本年も皆様方のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。私の新年のご挨拶を申し上げます。平成二十六年 元旦

薦福林

宿命、運命、天命を一身に背負って人生の山坂を上ったり滑ったりしていつしか馬齢の淨域に安住している。人は何の為に努力し精進を重ねなくてはならないのだろうか。気がついたら今日の姿。果たして今日の姿を追い求めた来し方であったのか、いや孤高にも今以上の何かを求めていたはずであった。どこで歯車が狂ったのか、自らが求めて狂わせたのか、脚下照顧することによって今日の自らの存在を確認する。一つより無いのちは呱呱の声を上げ廻りを喜びの涙の渦にした。長じて学業就職を全うして老人と言われるようになる。年々飲まねばならない薬の種類は多くなり、足も腰も思ったように動かなくなる。果たしてこの様な自分の姿を想像したことが有っただろうか。生老病死の真只中に身を晒して遂には宿命も運命も天命も脱ぎ捨てる。身軽になつて三途の川を渡る。三途の川が見えるまで現役。今為すべきことは！

(E・I)

『大野行政懇談会』

来山



宝慶寺の参拝を終えて

持田真理子

宝慶寺の参拝を終えて
さる十月二十三日に大野行政懇談会は、会長の大野市長をはじめ会員約二十名が、今年度の視察研修の場である宝慶寺を参拝させていただきました。

参道の杉木立やブナの群生を目にした時、仏の世界に導かれるように思わず襟をただし凛とした気持ちになりました。本堂や開山堂等丁寧な案内をいただき、さらに、有名な修行の坐禅巖の説明をお聞きし、この雪深い地で開山された寂円禅師の崇高な想いに胸を打たれました。

そして、今まで複製品でしか見られなかった道元禅師の本物の肖像画を見せていただいた時は、寂円禅師から今日に至るまで道元禅師の教えと肖像画を七百余年もの間守り続けてこられていることに深い感動を覚えました。

また、今年新たに坐禅の修行寺の末寺がアメリカのバーモント州に誕生したことや般若心経を唱えながらアメリカで初の托鉢を行ったことを紹介していただき、そのご労苦に対して感銘を深めたところです。本当にありがたい視察でした。(県奥越健康福祉センター所長)

開山忌だより

御開山寂円禅師入山七五二年目に当たる昨年は十月十一日と十二日に開山忌関連修行持を行いました。十一日は施主供養、五十

四世徹心良道大和尚十七回忌速夜、開山速夜、万灯会などを厳修いたしました。良道大和尚の速夜の導師は福井・瑞祥寺長谷川弘道師が勤められました。そして、開山速夜は永平寺御専師副監院小林昌道師が導師を勤められました。当日は他に曹洞宗特派布教師の富



山県林洞寺住職倉田豊彰師による法話、斉藤アイさんによる琉球民謡と民謡同好会「鶯」の会員による歌謡奉納があり、一連の行持を盛り上げて頂きました。十二日は施主供養、良道大和尚十七回忌正當諷経、開山忌正當諷経、山門大施食会などを行い、昼頃すべての行持が盛況裏に終えました。尚、良道大和尚の献粥諷経の導師は滋賀県洞源寺奥谷良晃師が、十七回忌正當献供諷経の導師は福井・徳巖寺東堂老師が勤められました。

三千礼拝行行われる

十一月二十二日(金)から二十四日(日)まで一般参加者をふくめて厳かに且つ肅々と行われました。

◆三千仏礼拝行に参加して

白山拝登を済ませてから参加させて頂きました。行中、寒さ、筋肉痛、交通事故の後遺症で心配、不安でしたが、皆様ががんばっておられる姿に後押しされ無事満行を果せました。

すべてが仏。ただ礼拝。合掌。

和歌山県新宮市

前まゆみ(如月光真)



お寺に来る犬 その7

(1)子離れ・親離れ

春になって、住処は母親シロと同じだが、子犬は単独で行動することが多くなった。それもそのはず、母親と見誤るほどに成長してきたのだから…。毛色も全く同じで母親シロの若かりし頃をほうふつさせているのである。子犬は私達が供養している餌場に母親と一緒にやってきたが、時には単独で来るようになった。

母親シロも別に住処をつくったようで、子犬は徐々に野生生活の術を会得していつているようである。と同時に、私達寺の人間と共存していくことも学んでいるようである。

私達はもう、檻を仕かけることはあきらめ始めている。

(2)シロ、またまた出産

(続きは次号へ)

S・I



山内日鑑より



紅葉の坐禅巖と銀盃峰

- 【十月】
 - 五日 大野市東部民生児童委員会 ご一同様 四十名団参
 - 福井市二ノ宮長寿の会様 二十四名団参
 - 六日 東京日輪寺様 四名来山
 - 七日 人権学習会(於御誕生寺) 四名参加
 - 十一日、十二日 開山忌法要
 - 十八日 福井第六教区ご一行様 百名団参
 - 二十日 三重第二宗務所ご一行様 六十名団参
 - 二十三日 大野行政懇談会 二十二名視察に来山
 - 長野第二宗務所第二教区様 二十二名団参
 - 二十六日 中京大野会様四十名団参
 - 福井・越前市合同参拝団 十三名団参



- 【十一月】
 - 三日 雪囲い大作務
 - 六日 浜松いやしの旅会様 十六名団参
 - 九日 サンケイリビング新聞社 取材のため七名来山
 - 十二日 東京より二泊参禅者一名 来山
 - 島根県浜田市龍雲寺様他 総代様三名 真承師拝請 に来山(観音寺様御同行)
 - 十四日 人権学習会
 - 十五日 大阪より一日参禅者一名 来山
 - 福井市(株)カズマ様主任・係長参禅研修

∴坐禅研修を終えて
 今回は宝慶寺様に坐禅他諸事参加させて頂きました。お寺での礼儀作法すべて仏法に従った型がきまっております、古人も同じようなかたちで綿々と受け継いでこられたのかと思いますと歴史の重みを感じずにはおられません。
 今回は特に坐禅をとおして自分を見つめるといい機会に出合わせて頂きました。自己成長の機会を与えて頂いた皆様に感謝いたします。
 (株)カズマ 牧野康一

- 二十二日～二十四日 三千礼拝行
- 二十五日 首座入寺式 配役行茶
- 二十六日 入制土地堂念誦
- 二十七日 入制の拝
- 【十二月】
 - 一日 蠟八撰心会(～八日)
 - 八日 釈尊成道会
 - 十六日 大般若祈禱
 - 三十日 大晦日歳末諷經 除夜の鐘



初冬の荒島岳＝大野富士
11月19日 4:05 木本より展望

主な山内予定行持

- 【二月】
 - 一日 修正会(～三日)
 - 六日 山内撰心(～十三日)
 - 二十日 寒行托鉢(～二十九日)
- 【三月】
 - 一日 涅槃会撰心(～七日)
 - 十二日 僧堂試験
 - 十五日 涅槃会
 - 十六日 解制土地堂念誦
 - 十七日 解制の拝
 - 【三月】 把針(～二十三日)
- 【四月】
 - 八日 山内撰心(～十三日)
 - 【四月】 釈尊降誕会
 - 三十日 大道会撰心(～五月五日)
- 【五月】
 - 七日 首座入寺式
 - 八日 配役行茶
 - 楞嚴会啓建
 - 入制土地堂念誦
 - 九日 入制の拝

参拝者の声

- ◇大野出身の浄土宗の住職をさせて頂いておられます。頭が下がります。有難うございます。
- ◇すばらしい秋晴れの中、八十六才と八十才お互い元気でお参りする事が出来ました。結婚六十年、最高の幸せと感謝しつつ…。
- ◇三度目の参拝。癌の病より奇跡的に生命を頂く。合掌。 石川県能美市 八十才 夫婦
- ◇久しぶりに来ました。心が落ちつきました。大根、もつて来ました。皆様で食べて下さい。 金沢市 夫婦
- ◇孫の百花が幸せになるように、バイクで通りかかりました。立派なお寺にびっくり。 千葉市 男性

宝慶寺吟行奉納

閑かきの灯明うつす堂の冷え
 寂円の里もみぢ散る禅の寺
 黒染めの衣に託す綾錦
 原 皐月
 み佛のぬくもり感ず初時雨
 竹内 君花
 修行なる素足冷たや禅の道
 原 文香
 平成二十五年十一月十五日
 五箇の郷句会



長日の紅葉のうへにゆき降りて
 見ん人たれか歌をよまざる
 道元禪師



11月13日 銀盃峰の紅葉と初冠雪

しばし、忘れていた雪が今年もついに訪れてきました。紅葉の上に、銀盃峰の頂きに初雪をみました。
 いよいよ半年、雪と共存しながら修行に精進していく決意を新たにしました。(S・I)